会 議 録

開催日時	令和7年1月22日(水) 午前10時00分開会・午前11時55分閉会
開催場所	勝呂地域交流センター 2階 視聴覚室
出席者の氏名	林 信行 委員長 青木 美智子 副委員長 横手 忠 委員 斉藤 修平 委員 荒井 晴夫 委員 水村 義篤 委員 大塚 教雄 委員 要 9名出席
欠席者 の氏名	須田 富男 委員 1名欠席
事務局職員の職・氏名	坂戸市教育委員会 教育長 太田 正久 坂戸市教育委員会 社会教育課長 菅野 規之 社会教育課 課長補佐 神 亜未子 社会教育課 文化財保護係 係長 町田 貴裕 社会教育課 文化財保護係 主任 山本 良太 歴史民俗資料館 係長 眞下 陽介
会議次第	 開会 あいさつ 自己紹介 審議事項 報告事項 その他 閉会
配布資料	 1 令和6年度第2回坂戸市文化財保護審議会 会議次第 2 坂戸市文化財保護審議会委員名簿 3 座席表 4 審議資料1-1 坂戸市指定文化財の候補について(岩口遺跡4区1号住居跡出土遺物一式) 5 審議資料1-2 市指定文化財指定理由書 6 参考資料1 写真図版 7 協議資料1-1 坂戸市新資料館基本構想(仮称)の策定について 8 協議資料1-2 歴史民俗資料館移転にかかるスケジュール 9 協議資料1-3 坂戸市新資料館基本構想(仮称)に係る資料

10報告資料1 第2回坂戸のまつり実施結果について
11埼玉文化財だより
12令和5年度埋文さかど年報
13令和6年度文化財レスキュー・防災研修会・開催要項

	議 事 の 経 過
発 言 者	議 題・発言内容
司会 (事務局)	1 開 会
委員長 教育長	2 あいさつ 委員長あいさつ 教育長あいさつ
各委員	3 自己紹介(第一回文化財保護審議会欠席者2名のみ) 委員自己紹介
進行:司会	※市民参加条例に基づく傍聴希望者は0名。 ※坂戸市文化財保護審議会に関する規則第6条第3項の規定 により、林委員長が議長となる。
林委員長	5 審議事項
	 ・諮問書を、太田教育長から林委員長へ手交。 (保護条例第4条第1項、及び審議会規則第3条により) ・諮問「坂戸市指定文化財の候補について(岩口遺跡4区1号住居跡出土遺物一式)」 (教育長から委員長へ、諮問書を手交する)
事務局	3 審議事項 (1) 坂戸市指定文化財の候補について(岩口遺跡4区1号住 居跡出土遺物一式)
	(資料に沿って説明)
	ただいまの説明に対し、意見があるか問う。
委員	非常にたくさんの遺物が出土したということがよくわかるが、約1万6,000点を超えるという記載は、完成品を一つ

とするのではなく、複数の土器片を組み合わせて一つにしているものや(単独の)土器片を一つとするということでよいか。

事務局

その点に関しては、組み合わせたものを一つと数えており、 最終的な集計としては、約1万4,000点程度まで減っている。

委員

相当数がここに挙げた469点の中に含まれるということでよいか。

事務局

実際には、この中には含まれていない破片の方が多い。というのも小さすぎて、今回の報告書に載せるに至らないほどの小さい破片もあった。その中からピックアップした400点なので実際は破片同士をつなぎ合わせると、1万4,000点程度までにはなっている。

委員

説明の中で今回の遺跡は「高い一括性」があると言っていたが「低い一括性」の遺跡も存在するのか。その部分をどのように決めるのか。

事務局

高い一括性というのは非常に難しいところではあるが、要は一つの遺構からどれだけの遺物が出ているかというところで、1個2個しか出ていない、他のところからも1個2個しか出てこない場合がたくさんある場合は、一括性としては低い。

今回の場合、1万6,000点という通常の住居では想定できない数のものが一つの遺構の中から見つかり、一般的なものと比べたときに、高い一括性という表現にはなる。

委員

それを受けてだが、住居跡ということでよろしいか。

事務局

住居跡の中から出ているものという意味で今回挙げた。今回 の1号竪穴状遺構がもう一つ見つかっていると言ったが、そち らの方は、この指定の中から外させていただいている。住居跡 の住居の中の一括性というところで、ご判断いただければと。

委員

常識的に考えてすごく長い年月が経過している物だと思うが、一つの住居等から出てくる品としてはちょっと「多すぎるかな」というイメージがあるがいかがか。

事務局

専門的な話にはなるが、この住居跡というのも、必ずしもその世代が使ってそれで終わりというわけではなく、そこが窪地として残っていれば、その場所に後の世代の人が例えば、ゴミを捨てる。その後は、お祭りをやる時など、その場所を使ってやる。かつ、そこが埋まっていった過程でもう一度掘り直して、新しく別の世帯が住むこともある。そういった住居の中のストーリーが積み重ねられていく過程の中で、その住居の一生が決まってくる。それが層位的に見れば、例えば何回掘り返されたか、どこで、どういうことを行っていたかがわかる。それらも考えて、一つの世代の住居ではなく、長年にわたる一つの住居の歴史が一括的に出ていくという見方になる。そのため、これだけの土器が大量に出ている状況となる。

委員

廃絶後のものもかなり捨てられているという解釈でよろしいか。祭祀関係が非常に多いので近くでお祭りをやって、それ専用の物を埋めているという理解か。

事務局

報告書の中から簡単に、その祭祀行為の部分を説明させていただくと、建屋の状況がある程度廃絶を迎えたときに、柱の近くで、火を焚く行為、またそれと共に動物の骨がかなり焼けて出ているので、何かしらの火を伴って動物骨を使うような祭祀行為でさらに、そこに石棒や、耳飾りなど非常に精神性の強いものが出てきているので、それらを使って、お祭りのようなことをやっていたと考えられる。その上、イノシシ骨の下顎骨がかなり出てきているので、イノシシを使った祭祀行為をしている可能性があると想定される。また、竪穴住居の跡地でいくつか形成されているので、廃絶後の窪地を使って何かしらの祭祀行為を行っていた可能性があるというのが今回の調査でわかった。

委員

2点質問させていただきたい。1点目が95㎡という狭い中で、これだけ大量なものが出て驚いているが、これが地域指定の文化財として、私もふさわしいと思っている。土器については、確かに割れてしまえば使い物にならないから、どんどん増えてしまうのは分かる。その上で特に石類については、見るとまだまだ使用可能なものが、こんなに大量にあって驚かされた。

質問については一つまず聞きたいのは、骨格器が資料の中でどれなのか、探したが見つからなかったので教えていただきた

い。

事務局

図版16の459番がそれである。

この白いものがそれである。二番目に一番右側にある、六角製品でシカの骨を使ったヘアピンの軸とみられる。

委員

疑問だが、縄文時代の後期から晩期と、ちょうど寒冷化が進んだ時期だった記憶がある。そうした時期にこれだけの石類等を残したまま、ここに住んでいる人がいなくなって、他へ移動したのか、あるいは河川の氾濫等で避難のため、他へ移動したのか、どういうふうなことを考えられるのか。

事務局

今回の場所だが、縄文時代晩期の中でも、特定の時期に集落が形成されている。その前段階としては、比較的市内でも多くの遺跡が見つかっている。縄文時代後期の終わり頃の遺跡に関しては、市内では存在するがそれが寒冷化に伴い、集落が小規模化していく中で、特定の場所にある程度集落が集まる。そのあと弥生時代に入るが、弥生時代の前半段階の遺跡については坂戸市内では確認されていない。

この人達が、直接的にどこに行ってしまったのか、その後どうなったのかというのはまだ今後、検討が必要。この縄文時代 晩期の岩口遺跡も、今後報告書という形で出て初めて世に問われるので、この後、さらに研究が進んでいくことになる。そう なり、また色々と分かってくるところで言えば、まだ未確定要素が多いと回答とさせていただければと思う。

委員

(事務局説明に)補足がある。私は埼玉県埋蔵文化財調査事業団で、県内全域を調査し、30何年かやっているが、縄文時代晩期の集落跡を目にしたのは、4回ぐらいしかない。私が携わった遺跡にこれとよく似た竪穴住居跡の発掘を川口でやったが、地形的に同じような四角い住居の施設があって、遺物が出ているが県内でも少ない。要するに集落になったということが今のところ珍しいので、なんでそうなってしまうのかが、やはり、考古学者の間では当然出てくる。縄文時代中期、あるいは後期時代がものすごく栄えていて、だんだん尻すぼみになっている。なぜ、尻すぼみなのかという理由すらもわかっていないという状況。それと例えば、時を同じくするように、集落の中から土偶だとか、祭祀遺物がものすごく大量にでてくる。土偶や石棒というものが、祭祀の中心になる。そうすると、なぜ

土偶なのかというのが、我々のDNA、我々縄文人のDNAを 受け継いでいるにも関わらず縄文人の精神状態、精神性という ことが、未だにわかってない。この土偶とはそもそも何なのか というところから始まる。ロマンを感じるが、そういう状態な 上に、坂戸市で少し端が欠けているけれども竪穴住居が出た。 しかも縄文時代晩期。祭祀的な遺物も含めて、その当時の資料 がごっそり1軒(竪穴住居跡)の家に詰まっている状況があり、 その時代を理解する上で、この竪穴住居の資料等、遺跡そのも のが、基準、要は坂戸市が教科書になっている可能性がある。 その他、「一括」という言葉を言っていたが、すごく難しい 言葉で我々は一括性とか言うが、これは例えばペン A とペン B、ビニール袋がある。もしこれが、一つの穴から同時に三つ 出てきたら、この三つの道具は全然違うものだが、同じ頃に埋 められた、同じ頃に捨てられた、同じところに使われていたと 想像できる。それが実際にはペンの蓋と、このビニール、ボー ルペン片がバラバラになって出てくるわけである。それがこち らの住居跡から出た、ここから(別の場所)出た、こっちから (別の場所) 出たというのが別々にあったとしても、ある遺跡 から、それが一緒に出てきたら、これは同じところに同じ目的 で使われていたものなのだというのがわかる。それが一括とい うことの意味になる。つまり、一括して出土したというのがす ごく大事で、私達が時代を考える上で、その一時に固執するの ではなく、他のものをこういう道具っていうのは、この中に収 まっていて、例えばお墓の中に古墳などでごっそり埋まってい たらその遺体に伴ったものということがわかる。それらが仮に いろんなところから散らばって出てきたとしても、ここにある もの、こちらにあるものは、同じ時代のもので、どういう目的 で使っていたかという基準になる。坂戸の岩口遺跡から出てい るから、これを基準に考えれば良いという、それは一括性を大 事にするということになる。だから、作業としては非常に地味 ではある。(事務局の説明であった)「本市でも希少な縄文時代」 というが、一般の人には、すごくわかりづらいという、それだ け要するに珍しいということで、このように出るということ自 体が珍しい。それからバラエティーが豊富と言ったが、様々な ものが一括で出ている。この晩期というわかりにくい時代を扱 うことも、それはそれで、とても大事。もう一つ層位的なとい うことは、例えば、私が紙をここに置きました。2時間後に再 度ここにおきましたと言ったとき、時間差がある。これが、例 えばこのままの状態が保たれていて、ある程度、上に土が溜ま

っていって、10年後に誰かがこの上に土を盛っていたとす る。時間差がでる。それを上から丁寧に発掘していって、それ が一番下から出ました、真ん中から出ました、上から出ました ということで、同じように出ていても、順番に下から順番に積 もっているというのを、そう層位的に時間差が追えるような、 順番がわかるっていうことで古い順に積もったと。そういう意 味で、この事務局説明にもあった「層位などの詳細が記録され ており」というのはそういうことになる。だから、資料的価値、 学問的にというよりも、坂戸市の歴史全体を考える上で、この 遺跡というのは、埼玉県全体の指標になって行く可能性あるの で、それがとても大事ということだと思う。考古学専門用語は とても難しい。だから、一般の人にはわかりづらいと思うが、 わかりやすい言葉でアピールしていけばもう少し理解を得ら れると思う。文化財に指定するというのはそこだと思う。市の 指定にするというのは、やはり、そういうところを市が大事に していくということの表れでもある。市民の宝であるから。だ から、そういうところがやはり指定に意義があるのかなと思 う。

委員

検出時の写真はあるのか。土器がびっしりあるような。 インパクトが欲しければそういうもののほうが説得(指定に向けて説明) しやすい。

事務局

フィルム写真だが、あまり写真が残っていなかった。出土状況でもメモ写真的に取られるものが、今回はなかった。

委員

今の説明とその前の説明について、市としても、とても大事だという意味がよくわかった。これは更に言うと、追加していただきたいのが県のレベルでもすごく大事であると考える。確認だが縄文晩期では、これは東日本とか国レベルでも重要だということでよいか。

事務局

研究やっていく上では当然市内でも珍しく、県でも事例が少ないとなってくると、全国的に考えても今後研究していく上では大事な資料になっていくとは思う。

委員

私はこれを見たうえで指定に賛成である。というのも坂戸市 全体の文化財の中で出土遺物、考古資料として指定されている のは、恐らく令和2年の入西石塚古墳三福寺1号墳から出た、 それは主に武器とか武具とか、そういうもの等だったと記憶している。今回の場合には本当に住居跡から人々の暮らしや、あるいは日常生活がうかがえるような、資料だということで、私は非常に嬉しい資料で坂戸の人々にとっても、関わりが出てくる資料だと思うのでぜひ、指定していただきたいと考える。

委員長

それでは、只今の岩口遺跡1号住居跡出土遺物一式これを教育委員会文化財指定が妥当であるという答申をさせていただくのでよろしくお願いする。

本議案については坂戸市文化財保護審議会として指定は適切であると決定しまして、次第4の協議事項に移らせていただく。本日の協議事項は1点。事務局より説明をお願いする。

事務局

- 4 協議事項
- (1) 坂戸市新資料館基本構想(仮称)の策定について

(資料に沿って説明)

ただいまの説明に対し、意見があるか問う。

委員

基礎的な質問になるが、大きさはどのくらいになるか。今の 資料館と比べどれほどの規模感になるか。大きくなるのか。

事務局

現在と比べ、交流センターの講堂部分が増えることを考えれば多少は大きくなると思われる。今後どういうふうな形で収蔵庫代わりに使うかどうかというのは、事務局側で提案させていただきながら、皆様に検討していただければと思っている。現在の交流センターの建物を再利用する予定なので、小さい部屋がいくつも繋る建物になる。それを耐震関係で、壁が取れるのか取れないのか等構造的な部分は、今後、関係部門の職員と相談する。また、どういう造りで建てたら、希望の大きさの部屋が造れるかというのは事務局で研究させていただき、皆様に相談させていただきながら詰めさせていただければと考えている。

委員

最近の他の資料館を見ると本当に空間を上手に使ってある。 それが北坂戸地域交流センターのイメージで、しかも通史的と いうことになると、変な形になってしまいはしないかと少し気 がかり。例えば床面を抜くとか、部屋を広げるなどが、どこま で可能なのかというのはちょっと気がかりだが、その辺で何か分かれば教えていただきたい。

事務局

今すぐお答えができないが、先ほどもお伝えした通り、できるだけ大きなスペースを造れるような形でやっていければと思っている。そのための関係課との調整もしっかりやっていくつもりである。

その他、有効活用の仕方としても、狭い部屋っていうのは一見するとデメリットに見えるが、細かく、それぞれの世界観が設定しやすいので、それはそれでかなりオリジナリティの強い世界の作り方ができるのではという意見もある。宮城県山元町の資料館は、それぞれの時代ごとに世界観を変えて提供することでオリジナリティを出している。

委員

いくつかはそういうところがあってもよいと思う。だが(広いスペースで)それぞれ一括していろんな世界が体験できるということも一つだと思う。それぞれ(時代など)の壁を超えて、訴えたいという場合には、少しスケールを大きくするのも一つの手なのかなとか考えると可能ではないかと感じた。

事務局

一つの参考とさせていただく。

委員

今日の基本構想の資料を見て思ったが、私もいくつかいろんな博物館づくりにかかわってきた経験から申し上げると、基本構想作成で油断し、計画を実施してしまうと後戻りできないことがよくある。基本構想はかなりしっかり作りこみが必要。もう、今からでは時間が遅すぎるぐらい。それぐらいの切迫感が必要と考える。また、前も申し上げたが資料館にするのか博物館にするのかというとこで大きな違いが出てくる。

歴史民俗資料館はいろんな所にあるが、必ずしも成功してない。どこも大体、同じような造りになっていて、差別化が行われてなくて、それで郷土自慢のコーナーのような造りになっていて、少しユニバーサルな広い視点が欠けている。他の博物館造りに携わり、思ったのは郷土愛が前に出過ぎると、広がりがなくなってしまうということである。そこで資料館なのか、それとももう少し広い概念の「ミュージアム」という名前をつけるところもあるわけだが、その広がりをもう少し考えたほうが良いと思う。また、計画の過程でよく陥ってしまう傾向として、結局、コストコントロールになってしまうということ。そのた

め、基本構想が一番大切な基礎になる。そして、基本構想が出来上がると、それにどのぐらいのコストがかかっているかを入れていかないと現実味が出ない。例えば出来上がった他の博物館を回っていて面白いなと思うのは、学芸員 0、全員パートということがよくある。何故かといえば、人件費に当てられる予算が残っていないから。そういうこともあるので、その後のランニングコストというか、初期コストも大事だが、ランニングコストまで視野を広く見て、予算計画を立て、その上、基本構想もこれに即していかないとならない

今、事務局が提示した展示の様々なものは、これまでの経験 上展示業者の提案に引っ張られてしまう傾向にある。そういう 点もあって、何とか坂戸でうまくやってもらいたいし、スター トを切ってもらいたい。逆に言うと、恐ろしいことが始まる話 でもある。そのぐらいの覚悟がないとならないと思う

委員

個人的な話で恐縮だが去年、遠野市(岩手県)周辺へ行ってきたが、そこの資料館とその脇に立派な図書館と二つある。ほとんどデジタル、グラフィック技術が使われていてこちらから見に行ったら、向こうから映像などが押し寄せてくるような技術が使われていた。東北の方の一つの町がここまですごいのか思った。また、町の方も綺麗だが資料館もびっくりした。昔のような展示がしてあり、それを勝手に見てくださいという感じではなくて、見せる側から押し寄せるような技術が使われていた。魅力的なところがあってよいと感じた。

委員長

以上で協議事項を終了いたします。次に報告事項に移りま す。本日の報告事項は1点になります。事務局より説明願いま す。

事務局

- 5 報告事項
- (1) 第2回坂戸のまつり実施結果について

(資料に沿って説明) ただいまの説明に対し、意見があるか問う。

委員

私は見に行った。感じたことを言うと、いろんな芸能団体があって賑やかだった。ただ、伝統芸能団体をあれだけ使い回すと疲弊しないか心配。民俗芸能も文化資源であるため、利用するのは良いが、安易な活用で多用すると、その出演団体が疲弊

してしまう可能性がある。文化財の使いまわし、具体的には文 化財と観光を組み合わせるというのが今問題になっていて、何 でもその文化財と観光を結びつけるという考えがある。しか し、やはり文化財には文化財としてのけじめみたいなものが必 要。組み合わせれば賑やかだから、とにかく協力に同意しまし ょうということだけでは、文化財行政としてはいけないと思 う。 委員 最初はやったときには、4~5年ごとに1回ずつやろうかと いう話は出てたいたような気がする。水村会長をはじめ、教育 委員会の職員は本当に大変な事をやっており、特に参加する団 体の皆さんも本当に大変だと思う。そのため、少なくとも数年 に1回ぐらいでやった方がいいのかなと私は思う。一般市民の 立場からすれば、各地でやっている祭りはなかなか見られな い。どこか一つ自分の近くのもの、あるいは大きいところは見 に行きやすい。小さい集落でやっている獅子舞では我々はなか なか見に行けない。それが一堂に見られるのは非常にありがた い話。 委員長 以上で報告事項を終了いたします。 進行を事務局にお返ししますよろしくお願いします。 事務局 6 その他 令和6年度文化財レスキュー防災研修会の開催要項について ・答申「坂戸市指定文化財の候補について(岩口遺跡4区1号 委員長 住居跡出土遺物一式)」 (委員長から教育長へ答申書を手交する) 閉会 副委員長 7